

令和5年度

「運営に関する計画」
最終評価

大阪市立日東幼稚園

1 学校運営の中期目標

現状と課題

今年度も新型コロナウイルス感染予防の観点から、子どもの安全・安心を最優先に考えながら、新しい生活様式を取り入れた園運営を行うことが重要である。反省を生かし、実現可能なことを前向きに考え、日東幼稚園の特色を生かした教育内容を充実させていく。

○安全・防災教育は、命を守る大切な教育である。前回でも、安全・防災教育に力を入れてきたが、更に積み上げていくことで、課題が明確になり、子どもも教師も保護者も安全意識が高まっていく。今回は、特に、災害安全や交通安全に重点を置き、子どもが自分で自分の身を守ろうとできるような意識を育みたい。そのためには、これまで以上に様々な想定を行い、教師自身がその場にふさわしい行動を様々な考えて子どもたちに指導できるように指導内容を工夫する。また、家庭に分かりやすく発信し、日頃の生活自体を大事にしながらし、連携して身に付けていけるように、工夫していきたい。

○一人一人の子どもを大切にしたい教育を行うためには、幼児理解が重要である。園内委員会を充実させるとともに、外部の関係機関と連携し、視野を広げ、園内で共通理解しながら一人一人に合わせた支援につなげていきたい。そして、違いを認め合い、一人一人の良さが発揮できるような、指導力の向上を目指したい。

○日東幼稚園の特色として、様々な国にルーツをもつ子どもたちが一緒に生活する日常がある。そのよさを生かし、生活や遊び、伝統行事を通して、日本や様々な国と地域の文化に興味や関心がもてるように指導を工夫していきたい。お互いのよさや違いを認め合い、大切に思い、育ち合える子どもを育みたい。

○幼児期は、体験を通して、心や体を動かして学んでいく。感染対策を行いながらも、幼稚園でしかできない体験を重視し、子どもの実態に合わせ、子どもが主体的に遊び、様々な体験ができるように、環境や指導内容を工夫していきたい。また、分かりやすく保護者や地域に発信し、幼稚園教育の理解を深めたい。

○基本的な生活習慣が入園前に身に付いていない子どもが多く、幼稚園教育の果たす役割は大きい。機会を捉えて保健指導を行うとともに、個別に丁寧に関わりながら、身に付けていきたい。また、個々の実態に合わせて、保護者と連携し、身に付けていくように指導の工夫を行っていきたい。

○コロナ禍、家庭では室内で過ごすことが多くなり、園内でも感染予防対策のため、運動遊びのできることに限られるようになった。そのため、子どもの体力が低下傾向にあることが課題である。感染予防対策に留意しながらも、子どもたちが、遊びを通して楽しんで体を動かすことができるように教材研究を行い、環境や活動内容を工夫して、体を動かす活動に取り組み、しなやかな体づくりにつなげていきたい。

○これまでも、日頃から園内での異年齢交流を大切にしてきたことから、思いやりや憧れの気持ちが育っている。新型コロナウイルスの感染状況に合わせ、小学生との遊びや手紙、ビデオでの交流や地域の方へのプレゼント作りなどを通して、心のつながりを大切にしてきた。これからも、園内だけでなく地域の方々と連携しながら、時期を逃さずできることを考え、積み重ねていきたい。

2. 中期目標の達成に向けた年度目標

【安全・安心な教育の推進】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守るように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。
- ②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は子ども一人一人を大切にした教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。
- ③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を25%以上にする。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園でいろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。
- ②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて、基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を30%以上にする。
- ③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- ①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関りを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

本年度の園運営全体を通して、年度末の保護者アンケートの結果から、年度目標を上回って達成することができたと評価された。また本年度は、年度目標のパーセンテージを「大変そう思う」と回答する保護者の割合が高められるようにした。その結果目標を上回る結果をいただいた。全教職員で子どもの実態を把握しながら、それに応じた指導方法を検討し実践を積み重ねてきたことが、子どもたちの成長と教育活動の成果につながったのではないかと考える。

幼稚園内での取組に加え、5月からコロナが5類に移行したことから、保護者や地域との連携ができるようになった。計画的に機会を逃さずに連携を大切にしてきたことや今できることを整理し丁寧に行ったことで子どもたちに、意欲、関心、思いやり、あこがれ、自分の身を自分で守ろうとする気持ちなどが育まれたと思われる。

今後、更に保護者や地域との連携が深まっていくことをありがたく思い、日東幼稚園の特色を生かしながら、園の実態を捉えて、教育内容を充実させ、子どもたちがたくましく生きる力を育てていけるようにしていきたい。そして、保護者や地域の人材を生かした取組や連携の仕方を工夫し、教育内容の理解が深まるようにすると共に、分かりやすい情報発信に努めたい。

大阪市立日東幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守れるように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。</p> <p>②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にしたい教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。</p> <p>③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を25%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>安全教育を通して、子どもが安全に気を付けて過ごす意識をもてるような指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・安全点検を毎月、全職員で行う。 ・様々な災害を想定して避難訓練や交通安全指導を年7回以上行う。 ・機会を捉えて、年7回以上保護者啓発を行う。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>一人一人のよさに気づき、互いに認め合う子どもに育つよう、一人一人の内面理解に努め、教職員で指導の在り方について話し合う。</p> <hr/> <p>指標 ・学期に1回園内委員会を行い、一人一人の子どもの実態や課題、支援の方向性などを共通理解する。 ・巡回相談や府立支援学校地域支援などを活用し、指導に生かす。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>日本をはじめ、いろいろな国や地域の文化にふれ、親しみや興味、関心をもつことができるような指導を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・機会を捉えて日本の伝統行事を知らせたり、伝統的な遊びを知らせたりする。 ・いろいろな国や地域の文化について、学期に1回教材研究を行う。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

- ①今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「幼稚園は、交通安全指導・避難訓練などを通して、自分の身を守れるように保育を行っていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は**76%**であったことで、目標は達成した。
- ②今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「幼稚園は、子ども一人一人を大切にされた教育を心がけていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は**71%**であったことで、目標は達成した。
- ③今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「お子様は、日本やいろいろな国と地域の文化に興味や関心をもつようになっていきますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は**59%**であったことで、目標は達成した。

【取組内容について】

- ①・日々の安全点検に加え、毎月安全点検簿を元に担当者を決め行っている。老朽化しているところなどチェックし、その都度補修することで、園内の安全な環境をつくることが出来た。
 - ・「警備及び防災の計画」「学校安全計画」に基づき、幼児の実態と発達段階を考慮した避難訓練や安全指導の計画を立て、下記の通り12回行うことができた。

5月	避難訓練 (火災) ・4、5歳児 ・3歳児見学	非常ベルの音を知らせ、過度に不安にならないようにした。絵本や紙芝居を活用し、火災の様子や避難の仕方を事前に知らせたことで、子どもが理解しやすかった。『お(押さない)は(走らない)し(しゃべらない)も(戻らない)の約束』についてなど、避難の仕方を知ったり、再確認したりする機会となった。
6月	避難訓練 (火災)	全園児での避難訓練を実施した。5月の訓練で経験したことが生かされ、放送や非常ベル、教師の話を静かに聞く、ハンカチで口を覆うなど、落ち着いて行動する姿につながった。また、クラスで事前に話し合うことで「練習だから怖くないよ」「煙を吸わないようにしゃがんだ方がいい」「上靴のまま逃げる」など知っていることを伝え、子ども自身が安全に意識する姿も見られた。
6月	緊急メール 送受信確認	緊急時や災害時に、保護者と連携が取れるように、緊急メールの送受信テストを行った。メールが遅れて届くなど、課題が見つかり、個別に確認することができた。保護者と緊急時の連絡手段について共通理解することも出来た。
7月	防犯・安全指導 ・浪速警察との 連携	1学期終業式に浪速警察と連携し、防犯・安全について指導してもらった。視覚物(絵や記号)を使い、クイズ形式で行うことで、外出時は保護者と離れないことや、信号を守るなど、子どもにも分かりやすかった。また、身近なエピソードを用いて教職員が寸劇をし、夏休みの安全な生活へとつなげた。子どもたちは、身近な内容に興味をもち、自分なりに考えながら話を聞くことができた。保護者も参加できたことで啓発にもつながった。
7月	おもちゃ花火 教室 ・浪速消防署との 連携	5歳児を中心に、消防署の方々に花火の安全な使い方を教えてもらった。「子どもだけで花火はしない」「お家の人に教えてあげよう」など、話す姿があり、夏休み前に家庭での安全についても指導を行うことができた。
9月	避難訓練(地震・ 引き渡し)	教師の指示を聞いて机や椅子の下に入り、頭や体を守ることは素早くできていたが、新入园児の中には、防災頭巾を被ることが難しい子どももいた。また視界が狭くなるためか防災頭巾を被って避難をしたり、集中して話を聞いたりすることが難しかった。保護者にも訓練の様子を伝え、お家でも防災頭巾を被るなどの練習をするようお願いした。保護者は災害時の引き取り方を知り、子どもを確実に引き取る方法を理解しながら落ち着いて参加することができた。

10月	避難訓練 (地震・津波) ・地域との連携	地震の避難の仕方を再確認し、津波発生時の二次避難について知る機会となった。日東住宅4階に避難させていただき、地域の方にも守られていることを知ることが出来た。教職員も子どもの誘導の仕方や配置を確認し、安全意識の向上につながった。
11月	避難訓練 (不審者)	園庭の好きな遊びの時に、不審者が門から侵入した想定で実施した。緊急事態の合図を事前に教職員や子どもと共通理解したことで、静かに速やかに避難する事ができた。教職員の連携もとりやすかった。
12月	交通安全指導	2学期終業式自転車使用時のヘルメット着用や、信号などの交通ルールについて話をした。3学期の園外保育では、子どもから信号を守ろうとする言葉や行動が見られるようになった。
1月	避難訓練 (火災・消防協会立合い)	出火場所を事前に伝えずに避難した。臨機応変に一番安全な避難経路を判断し避難することができた。また、5歳児が訓練の後、「お・は・し・も」の約束かたでポスターをつくり、3・4歳児や保護者に啓発することができた。
1月	避難訓練 (地震・予告なし)	事前に教職員にも発生場所や時間の打ち合わせをせずに訓練を行った。前日の雪遊び後、園庭のコンディションが悪い中、あえての実施だったが、教職員が連携して集合場所を工夫するなど、落ち着いて避難することができた。子どもたちは、今までの訓練の積み重ねがあったことで、集中して教師の指示を聞き、素早く非難することができた。
2月	交通安全マナーアップ	2月26日(月)に実施予定。

・学校安全計画に基づき、以下のように機会を捉えて話し合いや安全指導を行った。

4・5月	園内での安全な生活の仕方	園内での安全な生活の仕方(廊下は歩く、上靴を履く等)や、遊具の安全な使い方について知らせた。また、階段の使い方や、2階での安全な過ごし方について話し合った 5歳児が危険な場所を話し合い、3・4歳児に知らせたことで、子ども自身の安全への意識が高まった。
6・7月	製作用具の使い方	製作時にハサミやセロテープなどの用具の安全な使い方について知らせた。
6・7月	雨天時の過ごし方	雨天時は、雨で濡れてすべりやすいことなどを知らせ、安全に過ごすにはどのようなすればよいかを話し合った。
8・9月	けがの予防	「残念なけが」と、「頑張ったけが」の違いについて知らせることで不注意なけがを減らすよう努めた。
10月	遊具の安全な使い方	園庭や遊戯室で、巧技台や竹馬等、運動遊具の使い方を知らせ、安全に遊べるように指導した。
10月	園外での安全	園外保育に向けて園内探検を行った。歩く時は端を歩く、階段は手を離す、狭い所は列になる、前を見て間を開けずに歩くなどを確認し、実際に歩いて安全指導をした。
11月	製作用具の使い方	製作時にハサミやテープカッターなどの使い方について再度知らせ、安全な使い方について子どもが自分で考えて使えるよう声掛けをしたことで、自分で気を付けて使う姿につながった。
11月	安全な園庭の使い方	園舎が工事中のため、遊具の個数や種類を選定して置き、安全に遊べる環境を整えた。子どもたちには、安全な園庭の使い方について知らせた。
12月	室内での安全な遊び方	これまで遊ぶ時には広い場所で遊ぶなど、遊びの変化から、その都度安全な遊び方を繰り返し知らせた。また、階段での歩き方や廊下の歩き方などの再確認を行った。

1月	冬の生活安全	転倒時に手が出るように、気温が低くても歩くときにポケットに手を入れないことを知らせた。また、園庭で遊ぶ前には、体操やマラソンを活用し、体を温めてから遊ぶようにしたことで、大きな怪我なく元気に遊ぶことができた。
----	--------	--

- ・避難訓練や安全指導などを行った際は、降園連絡時やホームページを活用して保護者に取り組み内容や子どもたちの姿を知らせ、家庭で次に何を意識したらよいか伝えることができた。また、週末に座布団(防災頭巾)を持って帰る際、家庭でも防災頭巾の被り方を練習してもらえるよう啓発し、家庭と幼稚園が連携できるようにした。
- ・今年度は11月から園舎の工事が始まった。避難訓練では工事現場を避けた避難経路を確認するなど、安全に避難する方法を教職員間で考え直し、安全への意識を高めることができた。
- ・予告なしの避難訓練をしたことで、実際に災害発生を想定し、叱咤に身を守ったり教師の指示を聞いて避難したりするなど、訓練の積み重ねが生かされていることが分かった。また、教師もどこから避難するのが良いのかなど、改めて考えるきっかけとなった。

②・園内委員会を4月、8月、12月と3回実施し、子どもの実態や今後の支援について共通理解し、実践に生かすことができた。また、日々職員室で子どもの姿実態や課題、成長していることなどを声に出し合い、みんなで考えることで、教職員全員がどのクラスの子どもについても知り、援助できる体制がづくりに努めている。

- ・巡回相談を7月10月、府立支援学校との連携を12月に2回、計4回行い、支援が必要な子どもへの具体的な指導方法について学ぶ機会となった。一人一人に合った支援方法を実践することができ、子どもの姿に変容が見られた。
- ・学級懇談会や個人懇談などを通して保護者の話をじっくり聞くことで、家庭での様子や保護者の思いを聞くことができ、子どもの内面理解につながった。
- ・終業式の保護者会で、幼稚園での子どもの様子をスライドショーで紹介し、取組を伝えると共に家庭でも協力して欲しいことを啓発した。

③・以下のように機会を捉えて、日本の文化や伝統的な遊びを知らせることができた。

こどもの日のつどい(5月) 七夕の集い(7月) 敬老の集い・十五夜(9月)

正月遊び(凧揚げ・コマ回し・かるた・すごろくなど) 年賀状(12月)

正月についての話(1月) 節分(2月) ひなまつり(3月) 季節に応じて折り紙遊びなど

日本の伝統的な行事や由来について、絵本などを活用し、継続的に保育に取り入れた。子どもたちは知っていることを伝えあったりする姿が見られるようになった。また興味関心も高まりつつある。

- ・5月に5歳児が様々な国の言葉で挨拶週間を行った。様々な世界の言葉を調べ、各国の挨拶が書かれた手作りの旗をもって取り組んだ。そうしたことで3・4歳児も真似て挨拶し様々な国の言葉があることを知った。
- ・日本や世界の絵本など、子どもたちが身近に手に取って見たり調べたりできるように、絵本を精選したり、世界地図や日本や外国にルーツをもつ子どもの国の国旗の掲示を行ったりした。
- ・日本や世界の祭りや世界の遊びの本を図書館から借りたり、世界の食事について書籍で調べたり(作品展で子どもたちが製作したものを掲示した)劇遊びのお話の絵本を翻訳機で中国語に翻訳し、貸し出したりすることで正しい翻訳をしたものを保護者から再度教わるなど、学期に一回以上教材研究を行った。
- ・3学期始業式に鏡餅や正月花を飾り、由来や意味について話し合った。5歳児は素材を使って鏡餅をつくるなど、日本の伝統文化に興味関心をもって遊ぶ姿につながった。
- ・外国語の絵本や、日本を始めとする様々な国の遊びや祭りを紹介した本を購入し、手に取って見ることができるようにした。子どもたちが慣れ親しんでいる絵本を置くことで、関心をもって見ている姿が見られた。また、文字の違いに気付き教師に伝える姿があった。
- ・11月8日、絵本読み聞かせボランティアの「なにわ絵本の会」の方が来園し、中国語を話せる方も来て下さり、中国語での読み聞かせをしていただいた。中国語のリズムや音に興味や関心をもつことができた。

次年度への改善点

- ①今後も様々な想定で、避難訓練を積み重ね、自分の身を自分で守る方法が身に付くようにする。また、教職員の安全意識を高め、役割や避難時の配置など確認し、連携して安全教育の推進に努める。
- ②今後も園内委員会を計画的に行ったり、日々教職員間で気付いたことを声に出し合ったりし、一人一人の子どもの実態や課題、支援の方向性などを共通理解していく。また、巡回相談や府立支援学校地域支援の連携をし、専門的な視点から教えてもらい指導に生かす。
- ③外国にルーツをもつ保護者や卒園児の保護者に母国語で絵本を読んでもらったり、舞踊を見せてもらったりするなど、保育に参加していただく機会をもてるよう保護者との関係づくりができるようにしていく。また、引き続き書籍やインターネットを活用し、日本をはじめ外国の遊びや情報を得て教材研究を行っていき、子どもたちや保護者に広めていけるようにする。また、外国にルーツをもつ子どもや保護者にも日本の文化を理解してもらえるように、日本の伝統的な遊びや文化の由来や意味などの掲示も行い、ホームページを活用するなどし、保護者への発信方法を広げていく。

大阪市立日東幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園で、いろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。</p> <p>②今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を30%以上にする。</p> <p>③今年度の本園の保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向3 幼児教育の推進と質の向上】</p> <p>子どもの興味や関心、発達を捉え、遊びを通して楽しみながら様々な体験ができる教育内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、見通しをもった保育を工夫する。 ・実践記録を年3回以上検討し、幼児理解に努め、指導に生かす。 ・月に3回以上、子どもの育ちについて、保護者や地域に発信する。</p>	A
<p>取組内容②【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>基本的な生活習慣が身に付くよう指導の工夫をし、家庭との連携を図る。</p> <hr/> <p>指標 ・子どもの実態に合わせて、毎月1回、保健指導を実施する。 ・「保健だより」を中心に月1回以上、家庭への啓発を図る。</p>	A
<p>取組内容③【基本的な方向5 健やかな体の育成】</p> <p>進んで体を動かして遊ぶことを楽しめるよう、実態に合わせて環境や活動内容を工夫する。</p> <hr/> <p>指標 ・学期に1回、楽しんで体を動かすことができるような環境や活動内容を工夫する。 ・体操やダンス、運動遊具の活用などを通して、体を動かす活動に月1回以上取り組む。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標について】

- ①今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「お子様は、幼稚園で、いろいろな遊びに興味をもち、楽しんで遊んでいますか」の項目について、「大変そう思う」と回答する保護者の割合は79%であったことで、目標は達成した。
- ②今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「お子様は、入園前に比べて基本的な生活習慣が身に付いてきていますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は62%であったことで、目標は達成した。
- ③今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「お子様は、体を動かして遊ぶことを楽しんでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は77%であったことで、目標は達成した。

【取組内容について】

- ①・週案や日案を立てるときに、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、保育に活かすことができた。週案についての話し合いを毎週末に行い、季節や子どもの実態、年齢に合わせた保育内容について見直し、指導の工夫につなげたことで、いろいろな遊びに興味関心をもって遊ぶ姿へとつながった。1年を通して、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用して月案のねらいを考え、見直しをもって保育ができるよう工夫し、実践することができた。
 - ・今年度は、生き物を多く飼育し、(ダンゴムシ、アオムシ、ザリガニ、サワガニ、オタマジャクシ、カブトムシ、カタツムリ、メダカなど) 生き物の様子を観察することで、積極的に生き物について調べたり、世話をしたりする姿が見られたり、生き物になりきって表現遊びをしたりし、主体的に体を動かす姿につながった。また、生命を大切に作る気持ちが育まれた。運動会では、3歳児がカエル、4歳児がアオムシからチョウチョウになる表現遊びをした。
 - ・製作活動では、5歳児がクラスで通天閣をつくり、本物に近づきたいという思いから、実際に通天閣まで散歩に行き実物を見に行ったことで、細かいところまでこだわって、友達と一緒に力を合わせたり、考えを出し合ったりしながらつくる姿へとつながった。また地域への親しみの気持ちも育った。
 - ・劇遊びでは、子育てプラザから中国語のできる指導員に来てもらい、劇の内容を通訳してもらい、外国にルーツのある子どもも楽しんで参加できるように工夫したことで、その後の劇遊びに積極的に参加する姿へとつながった。
 - ・4・5月、6・7月に各クラスの実践記録をとり、10月には3歳児、11月に4歳児、1月に5歳児の実践記録をとり、計9回記録の検討を行った。いろいろな教師が読み取ることで、子どもの心の動きを読み取り、遊びの面白さや魅力について考えることができ、教師の働きかけや、幼児理解につなげたりすることができた。
 - ・ホームページや写真掲示、降園連絡の時や、学期末に保護者会を行い、子どもの育ちについて保護者や地域に発信することができた。また、毎月園だよりに月のねらいを記載し、保護者へ発信を行った。

- ②・指標に基づき、子どもの実態に合わせて、毎月1回、保健指導を実施した。

	うめ組 (3歳児)	さくら組 (4歳児)	きく組 (5歳児)
4月	保健室を知る	和式トイレの使い方 男子小便器の使い方	ケガの予防 (安全な遊具の使い方)
5月	歯みがき	朝のしたく (早寝早起き)	ケガの予防 (危ない所を見つけよう)
6月	手洗い	うがい	洗顔
7月	うがい	洗顔	食育 (野菜の力を知る)

9月	うがい・歯みがき	食育（3色栄養について）	ケガの予防 (がんばったケガ・残念なケガ)
10月	ケガの予防 (こんな事したらどうなる?)	食育（食べ方について）	食育（食べ方について）
11月	手洗い	手洗い	姿勢
12月	衣服の着脱	歯みがき	歯みがき
1月	早寝早起き	姿勢	食育（箸の持ち方）
2月	手洗い	手洗い	歯みがき

- ・保健指導後に、子どもたちが、基本的な生活習慣を継続していけるように担任と連携している。
- ・毎昼食後に、個別に歯みがき指導を行っている。その結果、ほとんどすべての園児が進んで歯みがきを行っている。また、ほとんどの4・5歳児は、正しく磨くことができている。
- ・毎月のほけんだよりのほか、臨時号として、健康診断号・歯の健康号・目の愛護デー号・けがの予防号・歯の健康号2を発行し、家庭への啓発を行った。
- ・弁当参観・歯みがき指導を行い、実際に子どもたちが歯みがきしている様子を見てもらったり、歯垢染め出しをしてもらったりしたことで、歯みがきの大切さについて保護者啓発ができた。
- ・また、長期休業中も家庭で継続してもらうために、夏休みの歯みがきカレンダーを発行。保護者会でかむことや歯みがきの大切さを知らせる動画視聴の手紙を配付するとともに、実際に動画を視聴してもらった。その結果、回収した歯みがきカレンダーでほとんどの園児が歯みがきも仕上げみがきも継続していることが分かった。
- ・2学期始業式に保健だよりの内容に合わせたバランスのとれた朝食の大切さを保護者に啓発したところ、その後にとった朝食調べで、94%の家庭でバランスのよい朝食やタンパク質を加えた朝食を食べていることがわかった。
- ・12月には大阪市生涯歯科事業で歯科衛生士に歯みがき指導をしてもらったり、園歯科医に保護者向けの講話をしてもらったりしたことで、更に歯の大切さを啓発できた。
- ・12月に4歳児健康教育を受けた。手の洗い方を再度確認したり、「おなかのこびと」の絵本の読み聞かせをしてもらったりした後、絵本を一人一冊もらったことで、食べたものがどうなるのかということに興味をもつきっかけとなった。
- ・3学期に入り、風邪やインフルエンザが流行したことで、手洗い・うがいなどの清潔習慣が身に付くよう再度指導した。4・5歳児は指導の中で、自分が清潔にすることで友達もウイルスから守ることが出来ることを知り、冷たい水だが丁寧に洗う姿が見られた。
- ・年間を通して、歯みがきや外から帰った後の手洗い・うがいなど基本的な生活習慣について継続的に指導したことで、子どもが自ら進んで歯みがきを行ったり、手洗い・うがいを行ったりするようになってきている。また、保護者から家に帰ってすぐに、進んで手洗い・うがいをする姿が見られるようになったという声も聞くようになった。

- ③・学期に1回以上、楽しんで体を動かすことができるような環境や活動内容を工夫することができた。
- 1学期、子どもの遊びの様子に合わせて、巧技台やフープ、エス棒などの運動遊具を用意したり、遊具の高さや間隔を調整したり、子どもが体を動かして遊ぶことができるよう、教職員で話し合いながら環境を整えた。楽しみながら体を動かす遊びを多く取り入れることで、肥満傾向の子どもの体重が減っていているという成果をあげている。また、プール遊びでは、初めは水に入ることを怖がっている子どももいたが、すべての子どもが楽しめるように水をかける量を調整するなど、一人一人に合わせた配慮をすることで、少しずつ水に慣れ、楽しむ子どもが増えた。
- 2学期、運動会では体を動かすことを楽しめるように環境を整えた。3歳児はカエルになりきって遊んだ。草のゴム跳びを用意したり、フープでつくった池を用意したりし、イメージをもちながらなりきって遊ぶ中で、楽しみながら体を動かすことができるような環境づくりを行った。4歳児は牛乳パックでつくった高さの異なるハードルを用意したり、アーチにタンバリンをつけたり、マットシート

とフープを組み合わせ、子どもの動きに合わせてゆらゆらと揺れるトンネルを用意したりすることで、跳んだり跨いだり、這って進んだり、体の多様な動きを取り入れて遊ぶことができるようにした。5歳児は、自分できめた目標に向かって、毎日竹馬や一輪車、なわとびに挑戦した。毎日の取り組みの中で、友達が頑張っている姿から刺激を受けたり、友達や教師から励まされたりすることで、意欲をもって挑戦する姿につながった。リレーでは、走る順番や走り方などについての作戦会議をチームに分かれて行った。友達と考えを出し合うことで、友達と一緒に頑張ることの喜びを感じることができた。活動内容を工夫することで、挑戦しようという意欲を高めたり、友達に対する憧れの気持ちをもったりすることにつながった。

3学期、寒い時期には、鬼ごっこ（バナナ鬼・増え鬼・色鬼など）・縄遊び（道づくり・しっぽ取り）・だるまさんがころんだ・ぐるぐるじゃんけんなどのルールのある遊びを（園庭が工事で狭いため）クラスで行い、ルールを守って体を動かして遊ぶ楽しさを感じることができた。12月にはたこあげ、1月には雪遊びを行う等、季節ならではの遊びも楽しんだ。雪遊びの前には5歳児が中心となって土山づくりを行ったことで、大きくなった土山の上からそりで滑ることを楽しむ姿につながった。また、お話の世界からイメージを膨らませ、なりきって遊ぶ表現遊びを行った。自分なりのイメージをもちながら、登場人物になりきって遊ぶ中で全身を使って表現する楽しさを味わうことができ、生活発表会ではその姿を劇遊びとして保護者に見てもらうことができた。

- ・入園したばかりの子どもにとっても親しみやすい「からだ☆ダンダン」や、子どもたちが興味を持っている生き物の動きを取り入れた「だんごむしたいそう」や「エビカニクス」をするなど、子どもの実態に合わせた体操を取り入れた。さらに、「こいぼり体操」では、こいのぼりを見ながら体を動かすことで、季節を感じるができるような工夫をすることができた。（4月：からだ☆ダンダン・5月：こいぼり体操・6月：だんごむし体操・7月：エビカニクス・9月：健康筋肉体操・10月：かえるのみどりちゃん・ス・マ・イ・ル・12月：秘伝！ラーメン体操）

また、こぐまクラブ（未就園児園庭開放）に遊びに来た未就園児に体操やダンスを見せてあげたり、一緒に踊ろうと誘ったりするなど、自信をもって楽しんで体を動かしている姿が見られた。

次学期への改善点

- ①今後も子どもの実態を捉えながら、幼稚園教育要領や就学前教育カリキュラムを活用し、教育内容の工夫を行っていきたい。見通しをもった保育を行うために、子どもが、今どんなことに興味や関心があるのかを探り、子どもたちがどんな風に育ってほしいという教師の願いをもち、保育を進めていけるように、幼児理解に努めたい。子どもたちの育ちについて、保護者や地域にさらに発信していけるように、ホームページの更新や写真掲示など回数を増やしていきたい。
- ②登園時間に遅れる子どもがいるため、早寝早起き朝ごはんの保健指導を継続して行う。保護者にも、登園時間を守ることができるように引き続き啓発していく。
- ③今後も子どもの実態に合わせて活動内容や環境を見直し、子どもたちが自ら体を動かして遊びたくなるような活動を取り入れることで、体力の向上を図っていきたい。また、その様子を写真掲示やホームページ等を通して保護者に発信することで、子どもの育ちの過程を伝えていく。

大阪市立日東幼稚園 令和5年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>①今年度の本園の保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関わりを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合を40%以上にする。</p>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向9 家庭・地域等との連携・協働した教育の推進】 異年齢の友達や地域の人に関心をもち、親しみの気持ちや思いやりの心を育む。</p> <p>指標 ・学期に1回以上、異年齢の友達との交流内容を見直し、工夫する。 ・地域の人との交流を見直し、実施する。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<p>【年度目標について】</p> <p>①今年度本園の最終保護者アンケート調査で、「幼稚園は、異年齢の友達や地域の人との関わりを通して、思いやりのある心を育むことができるように取り組んでいますか」の項目について「大変そう思う」と回答する保護者の割合は66%であったことで、目標は達成した。</p> <p>【取組内容について】</p> <p>①・保育の内容や子どもの実態に合わせて、異年齢交流の内容を見直しながら、進めることができた。5歳児が3歳児の身支度やお弁当の準備を手伝ったり、園内探検や地域の公園散歩、園外保育で手をつないだりしたことで思いやりの気持ちや安心感、年長児への憧れの気持ちをもつことにつながった。こどもなつまつりでは、5歳児がお店をつくり、全園児でお店屋さんごっこをしたことで、友達とやり取りをして遊ぶ楽しさを感じることができた。作品展後に5歳児がつくった作品を使い、お店屋さんごっこをしたり、1月の今宮戎神社の園外保育の後に、5歳児がお店づくりをし、お祭りごっこをしたりし、交流を楽しむことができた。</p> <p>運動会では、3年ぶりに3学年一緒に行うことで、互いに応援合ったり、憧れの気持ちをもったりすることができた。</p> <p>2学期の園外保育では、4歳児が3歳児と手をつなぎ動物園へ行った。4歳児の子どもたちも、年下の友達に優しく関わる気持ちや、「こっちに行くよ」など、年上としての自覚の芽生えにつながった。</p> <p>1年を通して、毎月の誕生会で仲良し遊びやダンスなどを取り入れた。異年齢で共通の遊びができ、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わった。年長児は年下の友達に優しく接する。3、4歳児は、友達との関わり方を知り、回を重ねるごとに相手を思いやって行動できるようになっていった。</p> <p>・地域の各園所との交流では、年度当初に年間交流を見直し、計画をたて実施した。6月13日に広田保育所と交流を行い、ふれあい遊びを行うことで同じ地域で育つ仲間として意識することにつながった。愛染橋保育園の交流は、雨天のため中止となった。2月の幼保交流も雨天のため中止となった。2月に幼稚園と保育所で年間の反省会を行い、次年度の交流へとつなげたい。</p> <p>・未就園児活動も今年度再開し、5月から月2回程度、園児との交流も行うことができている。こぐまクラブ（未就園児園庭開放）の受付を園児がしたり、遊びに来た未就園児に声をかけ、遊びに誘うなど、優しい気持ちを育てている。</p>

- ・ 5歳児が9月に、4，5歳児が11月に、3，4歳児が12月に地域食事サービスへ行き、地域のお年寄りと交流をした。出かける前には、プレゼントを渡したいと、コースターやサンタクロースのカードなどをつくった。当日は肩たたきをさせていただいたり、「100さいのうた」を聴いていただいたり、「ありがとう」と微笑んで下さり、受け入れていただく喜びや、お年寄りを敬う気持ちや優しさを育むことにつながっている。
- ・ 11月に浪速小学校の2年生との交流を行い、手づくりおもちゃを持って来てくれ交流を楽しんだ。小学生に親しみの気持ちにつながった。翌日5歳児が教えてもらったおもちゃをつくって、3，4歳児と遊んでくれた。優しくされる安心感と年下の友達を思いやる心につながった。
11月日本橋中学の2年生が職場体験に来て、お兄さんお姉さん先生として保育に参加してくれ交流を楽しんだ。
- ・ 2月に5歳児が幼保小交流で浪速小学校へ見学に行き、1年生との交流を楽しんだ。保育所の友達と会うことで地域の同じ年齢の友達がいることを知り、親しみの気持ちもち、就学への期待にもつながった。

次学期の改善点

- ①今後も、異年齢での交流や地域の人との交流を行い、いろいろな人と関わりをもつ中で、思いやりの心を育んでいきたい。